

ベトナム・メコンデルタ沿岸，バードン海岸における季節的・経年的な中潮差海浜地形の変化

Seasonal and annual geomorphologic changes of mesotidal Ba Dong beach in the south-eastern margin of Mekong delta, Vietnam

洞口 圭史 [1]; 田村 亨 [2]; 七山 太 [3]; Ta Thi Kim Oanh[4]; 渡辺 和明 [5]; Nguyen Thi Mong Lan[4]; 村上 文敏 [6]; Nguyen Van Lap[4]; 斎藤 文紀 [7]; 立石 雅昭 [8]

Keishi Horaguchi[1]; Toru Tamura[2]; Futoshi Nanayama[3]; Thi Kim Oanh Ta[4]; Kazuaki Watanabe[5]; Thi Mong Lan Nguyen[4]; Fumitoshi Murakami[6]; Van Lap Nguyen[4]; Yoshiki Saito[7]; Masaaki Tateishi[8]

[1] 新潟大・院・自然科学; [2] 産総研・地調; [3] 産総研・地質; [4] VAST; [5] 産総研; [6] 産総研・地質情報; [7] (独)産総研・地質情報; [8] 新大・理・地質

[1] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ.; [2] GSJ/AIST; [3] GSJ/AIST; [4] VAST; [5] AIST; [6] AIST,IGG; [7] IGG, AIST; [8] Dept. Geol., Niigata Univ.

http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/public/TATEISHIMasaaki_a.html

ベトナム南部，メコンデルタは熱帯モンスーン気候区に属し，雨季（夏期モンスーン：5月～10月）と乾季（冬期モンスーン：11月～4月）の2つの季節に明瞭に分かれていることが知られている．メコンデルタ沿岸は南シナ海に直接面し，最大潮差約4m（大潮時），平均潮差約2m，年間平均波高約1mの中潮差海浜が発達している．世界的に見ても，これまで中潮差海浜の現行堆積過程について，特に季節的・経年的な変化に着目して研究した例は余り多くは知られていない．そこで我々は，2005年11月～2007年11月の間に計6回，メコンデルタ南東端，チャービン省のバードン海岸において基点を固定した測線を複数設定し，リポート調査を実施した．

調査手順としては，(1) バードン海岸の南北7kmの範囲内において，海岸線にほぼ直交する6本の測線（南からA，C，BN，BT，D，E）を設定し，(2) オートレベルを用いた地形測量，(3) 砂床形態や生物擾乱の観察・記載，(4) 表層堆積物の採集および粒度分析，(5) ボーリングコア試料の採取，(6) 流速計を用いた流向・流速の計測，等の作業を行なった．本発表においては，特に(2)の地形測量の成果に基づいて，バードン海岸の季節的・経年的な海浜地形と堆積作用の変化について報告を行う．

我々の調査の結果，バードン海岸の表層は細～極細粒砂からなり，海浜勾配は1/30～1/100，陸向きの急傾斜面を持つパーとトラフが繰り返す多段パー海岸であることが明確となった．さらに，調査地域の南西部（A，C）と北東部（D，E）においては凹状の侵食型海浜地形が，中部（BT，BN）では凸状の堆積型海浜地形が卓越することが判明した．

季節的变化に着目するならば，南西部は雨季に堆積傾向かつ乾期に侵食傾向，中部は雨季乾季に関わらず堆積傾向，北東部は雨季乾季に関わらず侵食傾向を示すことが分かった．これは乾季の強い北東風によってバードン海岸には，北方のコチェン川側から碎屑物がもたらされる為と推察される．しかしその供給量は総じて少ないため，中部では堆積が生じるものの南西部と北東部では逆に侵食が起こっている．一方，逆に雨季には，南西風によって南方のハウジャン川側から碎屑物が豊富にもたらされ，南西部，中部ともに堆積傾向が卓越する．しかし，北東部は河川の影響のために逆に侵食が生じている．

次に経年的変化に着目するならば，侵食型海浜地形を示す南西部においては，陸側で侵食傾向，沖側で堆積傾向が認められるものの，年オーダーでは若干侵食傾向にあると言える．北東部では年間を通じて侵食傾向が維持されている．その一方で，中部においては堆積型海浜地形が明瞭に認められ，過去2年間で最大約1.5mの堆積現象が確認された．